

なびの 又は津信のものいふのいせの同云々同上かしの秀綱女拾いくたの撮染後拾玄の  
後拾増基あはづの友則後撰おいその同後拾公資いはしるの忠房後拾なぎさの  
能圓郭公うなでの美作万の眞鳥すこゝゐの或寄子事元輔いくりの万蒙たかたの拾  
同どり万郭公うなでの美作万の眞鳥すこゝゐの或寄子事元輔いくりの万蒙たかたの拾  
くるせの万うつきの清少納言草福たちきの同くるべきの同うた、ねの同たれその伊賀同

よひたての同ゆるぎの近きある登蓮ときはの狭衣新たゝすの貞文新古なげきの古けしきの大  
隅千堀川こがらしの新古定家あはでの大玄のぶの陸房千わかまつの永範ころもでの  
山かたをかの新式部新古月よみの神宮西行人つまの山いはでの同こひのたかまの大てくらの  
撮をとたの近やなぎの丹波うさかの頼歌中なり俊足ふちたぢりの伊賀高まの

〔萬葉集九〕宇合卿歌三首〇二  
山科乃石田社爾市靡越者蓋吾妹爾直相鴨  
〔詞花和歌集九〕山城守になりてなげき侍りけるころ月のあか、りける夜、まうできたりける人  
のいか、思ふととひ侍ければよめる、  
藤原輔尹朝臣

山しろのいはたのもりのいはすとも心の中をてらせ月かけ  
よみ人えらす

〔古今和歌集十七〕題えらす  
おほあらしのもしのした草おいぬればこまもすさめすかる人もなし

〔永久四年百首秋〕柞  
はぐ、みし梢さびしく成ぬらん柞の杜のちり行みれば

〔萬葉集四〕太宰大監大伴宿禰百代戀歌四首〇三  
不念乎思常云者大野有三笠杜之神思知三

〔萬葉集八〕鏡王女歌

俊頼

後拾増基あはづの友則後撰おいその同後拾公資いはしるの忠房後拾なぎさの

なびの 又は津信のものいふのいせの同云々同上かしの秀綱女拾いくたの撮染後拾玄の